瀬谷中だより　２月号　令和２年３月１１日

＜学校教育目標＞
○ 自ら学ぶ力の育成と基礎学力の定着 〔知〕
○ 他者を思いやり、礼儀や規律を重んじる態度の育成 〔徳〕
○ 生命を尊ぶ健康な心と体の育成 〔体〕
○ 社会に貢献し、様々な人と関わり合う態度の育成 〔公・開〕

発　行　横浜市立瀬谷中学校
校　長　熊野　一隆
副校長　村上　直幸
住　所　瀬谷区中央５－４１
TEL 301-0096　FAX 301-0099

何事にも感謝の念を

校長　熊野　一隆

先日３年生と懇談する機会があり、その中で「さすが３年生だな」と感じたことがありました。それは、本人が書いた書類の字があまりにも丁寧で美しかったのでつい「奇麗な文字を書くね。やっぱり習っていたよね」と尋ねると、「はい、小学校１年生から中学校入学するまでの６年間硬筆と毛筆を習っていました。ただ、中学生になって部活や塾などで忙しくなってしまったのでやめてしまいましたが」と答えていました。私がそこで「なるほど、このように美しく字を書くことができるのは、あなたにとって財産だね」と伝えると「ありがとうございます。小さいとき硬筆と毛筆の習い事に通わせてもらえて、親に感謝しています」と。その生徒の照れの無い素直な言葉が心に残り、また大変に感動しました。ややもすると習い事が重荷となり、せっかくの自分のスキルアップになる修練の時間を前向きにとらえられず、その機会を無駄にしてしまうこともあると思います。しかし、その生徒は、『習わせてもらい自分の一生の財産を身につけることができたのは保護者のおかげ』と素直に表現でき、言葉に表すことができたことに頼もしささえ感じました。

江戸時代の九州に高鍋藩という貧しい藩がありました。その藩を大きく発展させたことから『中興の名君』と呼ばれる人がいました。その人の名は秋月種茂といいます。実はこの人は危機に瀕していた出羽の国「米沢藩」を立て直した上杉鷹山の実兄です。みなさんは上杉鷹山という人の名前を聞いたことがありますか。米国の第 35 代アメリカ合衆国大統領であるジョン・F・ケネディ大統領が「尊敬する日本人」として称賛した人が上杉鷹山です。その上杉鷹山の兄がこの秋月種茂です。秋月種茂も弟に負けない名君でした。彼が３６歳の時に藩政改革の重要な事業として藩校「明倫堂」を創立します。種茂はその創立精神を記した『明倫堂記』に「治道は賢才(すぐれた才知をもつ人)を得るを以て本となす」と綴っています。藩校には農民も商人も入学が許されたといいます。国づくりに何が必要なのか、国づくりの重要なポイントは何かを考え、人づくりに傾注し、藩の中に多くの人材を輩出しました。高鍋藩の多くの身分の低い人々は学べる環境に感謝し、実直に学びました。学びの継続性のある環境で感謝の念を忘れず、日々努力し学びを進めていけることに高鍋藩の多くの人は感謝したのです。

新型コロナウィルスの対応で、子ども達の学校生活が犠牲になっていることは否めません。その中でも卒業式を執り行い、卒業生の旅立ちを教職員一同祝いたいと願っています。また、ここまで立派に育てられた保護者の方々に感謝の念とともに、堂々と卒業していく子ども達を誇りに感じています。